

平成19年4月5日
横浜市立井土ヶ谷小学校
校長 有馬 武裕

井土ヶ谷小学校マニフェスト

(中期学校運営計画)

「井土ヶ谷小学校マニフェスト」(中期学校運営計画)を作成いたしましたので、ご一読いただき、ご意見・ご提案をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

- 1 この計画は、横浜市教育委員会の定める「学校版マニフェスト(中期学校運営計画)」として策定したものです。
- 2 は重点項目です。

計画期間

平成19年1月1日～平成23年3月31日

学校教育目標

～ともに輝きひびき合う子～

個性 共生 まち

見通しをもった問題解決力や、豊かな自己表現力を育てます。

互いに認め合い、共感的に生きていこうとする姿勢を育みます。

わがまちを理解し、まちの中で生きていこうとする姿勢を育みます。

学校経営方針

ともに輝きひびき合う子の育成をめざして、個性 共生 まち の視点で全教育活動を構築し、PDCAを展開しながら学校づくりを進めます。パイオニアスクールよこはま(PSY)推進校として、地域の組織力を活かす「井土ヶ谷ボランティア・コミュニティプラン」を策定し、自らの問題を解決する中で、豊かに表現し学び合い、わがまちを理解し、まちの中で共に生きていこうとする子どもの科学・地域・生活リテラシー(市民力・創造力)の育成を目指し、開かれた学校づくりを推進します。

指導の重点

- ・基礎・基本の確実な定着を図り、見通しをもった問題解決力や豊かな自己表現を育てるために、教育課程の検討・改善、よりよい指導法の工夫・改善に努めます。
- ・地域の教材開発をさらに推進し、地域との連携(ボランティア)を強化しながら、学習の総合化を図って、生きて働く実践力を育てます。
- ・「まち」の中で生きる子どもを育むために、保護者・地域等との連携協力体制の一層の強化、幼・保・小・中の組織的な連携の充実、井土小懇話会の機能の推進、危機管理の組織的な運営の充実に努めます。

改善の視点

取組目標

自ら考え、判断・行動し、変化の激しい時代を生き抜く力を身に付けることが求められている中で、子どもの主体性や問題解決の能力を高めるために、豊かな探究活動を通して確かな学力を習得できる教育活動を推進する必要があります。

自ら問題を見だし、方法を工夫したり自己を豊かに表現しながら互いに学び合ったりしながら問題の解決に向けてねばり強く取り組む問題解決的な学習を行います。

子どもが確実に基礎・基本を身に付けることができるように、個に応じた指導の充実を図ります。全ての学級の算数科の授業においてTT、少人数指導を行い、高学年において学年協働による学年専科制を導入します。

平成21年度までに英語教育を段階的に行います。

持続可能な社会に向けて、自ら考え、具体的な行動を実践する子どもの育成を目指し、自然体験型環境教育を推進します。

我慢力や粘り強さが低下し、規範意識や公共心などの欠如が問題となっている中で、生活・学習習慣を確立し、意欲的に生きるための基礎力を培うとともに、豊かな心を育む取組が必要です。

児童「かがやきボランティア委員会」が推進するあいさつ運動を全校に広げ地域の方々にも進んであいさつができるようにします。

学校保健委員会・児童「健康MVP委員会」を中心に、家庭と連携して「早寝、早起き、朝ご飯」運動をすすめます。生活振り返りカードを活用して、子どもの意識を高めるとともに家庭教育を啓発し、基本的な生活習慣の確立をに結びつけます。

家庭学習の習慣化(宿題)、学習内容の定着、学力向上を目指します。家庭と連携して心の教育を進めるため、12月の人権月間に、道徳を中心に授業を公開します。家庭でも共通の話題として話し合い自尊感情の確立、他者理解につなげられるようにします。

豊かな心を育むため、読書活動の充実を図ります。週1回の読書タイム、ボランティアの方々による読み聞かせ、図書室の電算化、畳コーナーの設置などの図書室環境整備、お薦めの本の紹介リストの作成、読書ノートの活用などを行い、本が好きな子をふやします。

食育教育の推進を図り、豊かな心の育成につなげていきます。栄養指導や食事のマナー指導などを通し、健全な食習慣と食への感謝の気持ちを育てます。

地域を知り、地域で育ち、地域を好きになる子どもを育てるために、地域、家庭との連携、協働をした学校づくりが求められています。そこで、地域参画型の開かれた学校づくりをこれまで以上に行っていきます。

地域と一体となった学習活動をつくります。

・学習ボランティアやクラブボランティアとともに、クラブ活動や学習のこれまで以上の充実を図ります。そのために、地域への呼びかけや協力者の情報を整理しながら地域の教育力を生かします。

・運動会で、地域の協力のもと、各自治会から法被を借り、5、6年生全員が自分の地域の法被を着てソーラン節を踊ることを継続します。

・ふれあいコンサート、ふるさと祭り等、地域とともに行事の運営や計画を行いながら、児童や保護者のお祭りや行事への参加を促します。

・子どもが地域のことや地域の方々の思いをより深く知ることができるよう、学習の中で地域の人材や教材に触れるようにします。

地域に主体的に参加し、働きかける子どもを育てます。

・子どもが地域の行事に、主体的に参加できるよう、学校だよりなどで日程や内容を紹介していきます。

<p>子どもの安全を脅かす事件が後を絶ちません。安全・安心な学校づくりを進めると共に、安全教育の充実を図る必要があります。</p>	<p>安全・安心に子どもたちが過ごすことができるように、教職員・保護者・地域による防犯体制のさらなる充実を目指します。現在PTAが母体となっている学援隊に、地域ボランティアの方も参加して頂き、一層の充実を図ります。</p> <p>登下校時の見守りボランティアのさらなる充実をはかるために、地域の皆様との情報交換を井土小懇話会などの場で行います。</p> <p>「家庭と子どもでつくる安全マップ」をもとに、担任との情報交換を繰り返しながら、安全な登下校路や遊び場所を学習することができるようにします。さらに、このマップから得た情報は、PTA校外委員会と共有しながら学区全体の安全マップとして配布致します。</p>
---	---

<p>人材育成の 考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校長のリーダーシップのもと、校内研究・研修を充実し、指導力の向上や教職員の自覚を高めていきます。 ・教師のさらなる指導力の向上を図るため、「研究授業」を継続して行い、外部講師等の指導を受けながら、日々研鑽に努めます。 ・日本ネイチャーゲーム協会認定のリーダー資格を取得し、自然体験型環境教育を実践する能力を身に付けます。 ・若手職員の活力を学校の活性化につなげるために、主幹教諭・コーディネーターが中心となってPDCAをもとに計画的に各組織を運営し、学校運営組織の改善を図ります。 ・中学校の学習に子どもがスムーズに移行できるように、小中一貫カリキュラムの実現に向けて、全教職員が中学校の授業交流に参加していきます。 ・校内委員会、生活部、見守りの会などの機能を活性化させ、児童指導担当教諭、特別支援コーディネーター、セクハラ窓口担当教諭の計画的な育成を進めます。
<p>平成18年度の 重点取組項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成17年度より継続して、横浜市教育課程開発実践推進校、文部科学省教育課程研究指定校として、「自然を読み解く力を育てる表現と学び合い」を研究主題に、理科・生活科を通して研究を進めていきます。 ・算数科指導において、平成16年度より継続して1年・2年・個別にT・T、3年～6年に少人数指導を導入し、個に応じた指導の一層の充実を図っていきます。 ・「スキルの時間」、「朝の読書」を設定し、基礎・基本の確実な定着を図ります。 ・夏期休業中の7月21日～7月27日の5日間の学習タイム・水泳タイム、8月22日～24日の水泳タイムを実施します。
<p>これまでの取組結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成18年度は、年間で2回以上の研究授業を行いました。その際、文部科学省教科調査官、横浜市教育委員会指導主事、大学教授、市内学校長を講師として招請し、本校の研究の方向性についてご指導をいただきました。顕著な変容として、子どもの科学的な見方や考え方が豊かになってまいりました。また、研究授業についての協議を通して、教職員の授業力の向上が見られました。 ・T・T、少人数指導において、習熟の程度に応じた練習問題に取り組むことができるようになってきました。また、個別の学習履歴を蓄積して子ども一人一人の学習状況を把握した指導を行うことができるようになってきました。さらに、朝のスキルタイムにおいても少人数指導を導入し、基礎・基本の確実な定着を目指した指導の充実を図ってきました。

- ・スキルタイムの時間を10分間から15分間へと伸ばした。このことにより、ある程度まとまった学習活動を行うことが可能となり、子どもの学力向上と学習習慣の定着につながっています。
- ・学習タイムには272名の子どもが参加しました。子ども一人ひとりが学習タイムのめあてをもって取り組むことができるような事前指導を行うとともに、課題に応じた学習を複数用意することにより、学習タイムの充実を図ることができました。水泳タイムには多くの子どもが参加した。夏休みの学習・水泳タイムが、保護者にも周知され、子どもの基礎的な学力・体力の増進につながっています。
- ・本校の井土小懇話会を横浜市のスクールミーティングと共催することで、横浜の教育と「地域で育てる子ども」について理解する場とすることができました。また、地域・保護者・全職員が参加し、「地域の子どもと感じる時はどんなとき」というテーマで話し合うことで、子どもをどのように見守っていかなければならないか、という共通理解ができました。
- ・夏休みの地域行事への参加を呼びかけることにより、地域・保護者・学校の連携のとれた取組ができました。
- ・地域・保護者・学校全体であいさつ運動に取り組むことで、地域・保護者の方からも子どもの変化に対して、好ましいご意見をいただいています。
- ・登下校時の見守りボランティアとの情報交換と組織化を図るために、連絡協議会をもちました。この会議で出てきた情報は、PTA校外委員会とも共有し、防犯体制の充実を図っています。

教育懇話会の意見

- 井土小学校の教育について
- ・井土小のイメージは、元気で活力がある学校です。一人ひとりのよさをさらに発揮して、より個性的になってほしいと思います。
 - ・子どもたちの意欲がわく授業をさらに実践して欲しいです。地域も協力していきます。
- 安全について
- ・保護者が自分の子は自分で守るという意識をもち、高めることが大切です。安全マップを見て登下校の安全について話し合っていきます。町内の巡回パトロールが効果的です。
- あいさつについて
- ・町内で登下校時パトロールをして、あいさつの声かけをしている。だんだんに子どもからもあいさつが返ってくるようになってきました。行事の招待状をもらい、学校に出向く機会もふえました。お互いに顔を覚え、親しさが深まっています。
 - ・保護者の方からも進んであいさつができるようになるとういのではないのでしょうか。
- 井土小懇話会
- ・懇話会を是非続けていってほしいと思います。学校や地域が抱えている問題をお互いに出し合うことが、解決につながっています。よいことだけでなく、負の部分も出してほしいです。
 - ・地域を知る上でも共通の理解や情報を共有することが大切です。

連絡先

〒232 - 0051

横浜市南区井土ヶ谷上町2 - 1

横浜市立井土ヶ谷小学校 担当窓口 副校長 青木

電話 045 - 741 - 5588

FAX 045 - 713 - 7957

HPアドレス <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/idogaya/>